

## 平成 30 年度 プロジェクト研究費研究実績報告書

令和 元 年 5 月 16 日

代表者 加藤 陽子

研究課題名	夫婦関係が出産前後の母親の心理的危機に及ぼす影響と危機への早期支援モデルの構築
研究期間	平成 30 年 4 月 1 日 ~ 平成 32 年 3 月 31 日
共同研究者	人間発達心理学科教授 布施晴美, 人間発達心理学科准教授 山下倫実, 人間発達心理学科講師 石田有理
1. 今年度の研究概要	
<p>ストレスを抱える母親=妻にとって、父親=夫のサポートは不可欠である (e.g., 尾形・宮下, 2003)。しかし、従来の研究は母親あるいは父親にのみ焦点を当てたものが多く、夫婦という当然あるべき関係性を包括した視点からなされた研究は少ない。そこで本研究では夫婦の關係に着目し、妊娠出産の過程で生じる母親の心理的危機やそれへの対処について、夫婦關係との関連から検討することとした。</p> <p>今年度は、上記の目的に照らし合わせ、まずは産後の夫婦について、子育ての現状や不安、不満感と夫婦關係との関連について、横断的な調査を行うこととした。</p> <p>平成30年度前半においては、調査への協力者を募ることを目的に、NPO 法人マドレボニータの吉田紫磨子氏を講師として招聘し、夫婦で参加できる産後講座を開いた。参加者は産後3年未満の母親を中心とした9名の母親と7名の配偶者であった。講座開催にあたっては、準備やその他講座補助のために学生 SA を募集した。講座参加者には、産後講座を通じて産後の夫婦關係について理解を深めてもらうと同時に、今後の調査への協力依頼し、調査の枠組みについての意見を求めた。</p> <p>これらの意見をもとに、年度後半には、第1子の誕生から3年未満の夫婦200組カップルを対象に、WEB を利用した質問紙調査を行った。内容は、人口学的属性の他に、夫婦關係効力感や親アイデンティティ、子育て参加度、育児不安などに関する約70項目であった。統計的分析に耐えうる量のデータを収集するため、調査協力者の収集にあたっては、学内の倫理申請を行ったうえで、クロス・マーケティング社に依頼した。なおその際も、参加者への侵襲性や個人情報の漏えいがないよう十分に配慮した。</p>	
2. 研究の成果	
<p>第1子の誕生から3年未満の夫婦200組カップルを対象に、WEB を利用した質問紙調査を行った。その結果、次のことが明らかとなった。</p> <p>①母の親アイデンティティと父親のアイデンティティは3因子構造で、それぞれ「親としての自信のなさ」「親役割の受容」「自己優先的な親役割」であった。</p> <p>②育児ストレスや父親の育児支援行動は、母親及び父親の親アイデンティティに影響することが示された。</p> <p>③育児ストレスと父親の育児支援行動、結婚満足度は、母親及び父親それぞれが抱く夫婦の關係効力感に影響することが示された。</p> <p>④母も子も支援していないと評価される父親は他の父親に比して自己優先的な親役割を否定していなかった。また父親が対母支援をしたと母が評価する時、母親父親は、ともに親役割受容しており、自信を失っていなかった。すなわち、夫-妻という關係による支援は、母親および父親の肯定的な親アイデンティティに関連するが、父-子關係を介した子育て支援は、肯定・否定どちらの親アイデンティティにも関連せず、むしろ逆説的に母親および父親の自己優先的な親アイデンティティと関連する可能性が示唆された。</p>	

### 3. 研究成果の公表実績・予定（年月日，方法）

2018年

山下倫実・石田有理・加藤陽子（2018），父親アイデンティティを規定する要因に関する探索的検討，十文字学園女子大学紀要 49, 13-25.

2019年

9月11日～13日 日本心理学会にて成果発表予定（ポスター発表）

- ・ 山下倫実・加藤陽子・石田有理・布施晴美，親アイデンティティを規定する要因に関する探索的検討（3）夫婦における親アイデンティティと育児行動評価及び関係効力感との関連
- ・ 加藤陽子・山下倫実・石田有理・布施晴美，親アイデンティティを規定する要因に関する探索的検討（4）父親の育児行動への評価と親 ID および関係効力感との関連